

Basketball information magazine delivered by on the court

# HUSTLE BOARD

BASKETBALL COMMUNICATION PAPER

VOLUME 002



TAKE FREE

ご自由にお持ちください。

2023年10月20日発行  
発行/(株)オンザコート  
<http://www.onthecourt.jp/>

## SPECIAL FEATURE KOBE STORKS

...06

04 OTCくきや(プレー)  
OTCくきや(お仕事)

08 ワールドカップ2023

10 報徳学園高校

11 三股中学校

12 HOOPREX

14 Nissy's TRAVELING TALK

15 TOPIX

16 コラム・プレゼント

トップリーグ探訪

BASKETBALL  
EXPLORING THE

TOP

LEAGUE

...02

DENSO Iris

TOYOTA BOSHOKU Sunshine Rabbits

YAMANASHI Queenbees

HIMEJI Egrets

豪華プレゼントが  
当たる!!



モルテン ワールドカップ2023  
決勝戦専用公式試合球

アシックス 河村勇輝選手モデル  
バスケットシューズ

神戸ストークス  
観戦ペアチケット



TICKET



Involved in basketball for everyone.  
2023  
10





AS A BASKETBALL PLAYER

# プレイヤーのかお

OTC  
*Kukiya*

監修 本間 (薬師寺) 伶  
Supervised by Rei Honma  
宮崎県出身、延岡学園高～環太平洋大～OTCくきやでプレー後、現在アシスタントコーチ。2011年FIBA U-19世界選手権出場（7位）。



18 杉本舞  
MAI SUGIMOTO



12 比嘉すずな  
SUZUNA HIGA



国内アマチュアリーグの最高峰に位置付けられる地域リーグ。男子は7プロック、女子は3プロックに分かれ、現在は約半年間にわたって続々リーグ戦の真っ只中。オンザコート社員を中心に構成し、西日本地域リーグ（8チーム）に参戦する女子チーム「OTCくきや」の選手を紹介します。



15 豊田有紗  
ARISA TOYODA



7 阿部瑞稀  
MIZUKI ABE



6 屋宣百合香  
YURIKA YAGI

頼れる主将・屋宣百合香（ツイ）↑  
「いつもOTCくきやを応援していただき、ありがとうございます。今季の開幕カードでは、チームとして徹底するべきことができていませんでしたが、後半戦に向けて日頃の練習から一つ一つのプレー精度を上げていきたいと思います。これから（チーム力が）レベルアップしたOTCくきやを楽しみにしていてください！」



14 田代ゆい  
YUI TASHIRO



10 陳岡沙亜羅  
SAARA JINGAOKA



19 西山美優  
MIYUU NISHIYAMA



11 藤田真生  
MAO FUJITA



8 山口萌瑠  
MERU YAMAGUCHI



「アマチュアのプライド」で観る人に希望を与える地域リーグ。来年度から、チーム戦力などを踏まえて選ばれた男子8チーム、女子6チーム（下記参照）による2回戦総当たりのリーグ戦「トップリーグ（仮称）」も始まる。プロもアマチュアも「日本一丸」で「バスケで日本を元気に」する。

【男子】 JR東日本秋田PECKERS（秋田県）、山形クベーラ（山形県）、プロテリアル ブルドッグス（茨城県）、黒田電気Bullet Spirits（東京都）、横河電機WILDBLUE（東京都）、日本無線（東京都）、富士通（神奈川県）、九州電力アーティサンズ（福岡県）

【女子】 秋田銀行（秋田県）、山形銀行（山形県）、ミツウロコ（東京都）、滋賀銀行LakeVenus（滋賀県）、紀陽銀行ハートビーツ（和歌山県）、鶴屋百貨店（熊本県）



13 佐坂明音  
MINON SASAKA



9 矢田貴海  
KIMI YATA

変幻自在のリズムで得点を量産する

AS A WORKER

# お仕事のかお

国内アマチュア日本一を目指しているOTCくきやのメンバーは、他の地域リーグチームと同様、日々仕事との「二刀流」をこなしています。バスケットボール専業メーカー「ON THE COURT」で働く彼女たちの仕事内容を、少しだけ紹介します。



全国各地にあるオンザコート商品の取り扱い。店舗から届く注文を正確に、素早く形にします。素材やデザイン、品番、サイズ、個数などを確認し、発注作業を行っているのは「エリ」こと矢田貴海選手です。



素材となる商品の在庫や流れを把握し、生産工場への発注状況をチェックしているのは「スズ」比嘉すずな選手。パソコンにズラりと並ぶ数字を見ながら生産管理し、今後の在庫予測もしています。



やってきました、商品が! 一気に届くのはほとんど朝です。荷受け作業は体力も必要ですが、段取りとチームワークも大事。福岡出身のルーキー「ユイ」田代ゆい選手は元気に箱を受け取ってくれました。



お客様の注文通りに、届いた商品の素材や色、デザイン、サイズ、数などがそろっているかを確認する検品作業に集中する「ラオ」と「ラオ」こと陣岡沙亞羅選手。発注書と商品を並べて、細部まで目を光らせます。



検品したTシャツを、ひたすらきれいにたたみ続ける「ミユ」西山美優選手です。社内には見とれてしまうほどたたみ作業が丁寧で素早いマスター（達人）もいて、西山選手は若手のホープです。



お客様に届けられる状態になった商品を箱に詰め、店舗へ出荷する「トワ」こと豊田有紗選手。夕方、配達業者さんと一緒にぎりぎりの交渉を行いつつ、少しでも早くお客様の手元に届くよう、大急ぎです。



本社倉庫内にある無地商品（デザイン加工前の商品）を集めている「マイ」杉本舞選手。リストにある品番、色、サイズを間違えることなく、素早く集め、加工の現場へつながっていきます。



本社内にもある加工場で、昇華プリントの出来上がりを確認する「ヨシ」こと佐坂明音選手。今季加入した佐坂三姉妹の次女は、ここだけの話ですが絵を描くのが非常に上手です。



年2回、取り扱い店の皆さんに、展示会で新商品の紹介をします。「ミキ」こと阿部瑞稀選手は9月、スッキリと身を包んで、ご案内。いろんな意見に耳を傾けながら、来年春に店頭に並ぶ商品の準備が進みます。

column  
オンザコート社員  
コラム

## 半田彩の イチ推し! / **NCAA 2023-24シーズン** 注目ポイント!!

もうすぐシーズンが始まるNCAA（全米大学体育協会）女子。私の個人的な見どころとして、カレッジバスケ最終年となる3選手を紹介します。



AYA HANADA  
半田 彩

1997年福岡県出身。福大若葉高から福岡大を経て2019年オンザコート入社。昨季までOTCくきやでプレー（コートネームはイチ）のバスケ歴17年女子。ペイジ・ベッカーズのプレーを現地観戦するのが夢。

1人目は超名門コネチカット大学（通算優勝回数最多の11回）のペイジ・ベッカーズ（Paige Bueckers）。膝のケガで昨シーズンプレーしていないものの入学当初より期待され、昨シーズン現役を退いた大先輩でレジェンドのスー・バード（五輪金メダル5度獲得）と比較されるほどの超逸材。昨年はSweet16（16強）で敗退となったチームを勝利へ導いて、伝説の選手にグッと近づけるか注目です。

2人目は昨シーズン終了後にルイビル大学からトランسفァー（転校）を表明して周囲を驚かせたヘイリー・ヴァンリス（Hailey Van Lith）。ペイジと同じく入学当初より先発ポイントガードを務め2021年はFinal4（4強・準決勝）、昨シーズンはElite8（8強・準々決勝）へチームを導いたスターがカレッジ最終年に選んだチームは、昨年優勝のLSU（ルイジアナ州立大学）。MVPのエンジェル・リースと最強デュオが誕生した今シーズンは優勝候補の筆頭。BACK TO BACK（2連覇）なるか。

最後はこの人。2024 WNBAドラフトで1位指名が確実視されている昨シーズンの準優勝校アイオワ大学のケイトリン・クラーク（Caitlin Clark）。Elite8ではヘイリー率いるルイビル大学相手にトリプルダブル（41p.12a.10r）を叩き出した全米満場一致のNO.1ガードです。そのシュート力は女性版カリーと言われるほどのエリートシュートメーカー。今年も得点能力大爆発で大暴れすること間違いなしです。

この3人には共通点があって、2019年にバンコクでおこなわれたU19ワールドカップの優勝メンバー（ちなみに日本は東藤なな子選手、今野紀花選手、石牧葵選手らが奮闘して8位）で、そしてポジションも全員ポイントガードなんです。現在はケイトリンが全米NO.1と目されていますがヘイリー、ペイジも誰もが認める実力をもっています。今シーズン、この3人のスーパースターの活躍に期待です！



## TOMOHIRO MORIYAMA

森山 知広(モリヤマ トモヒロ)

1984年、福岡県出身。九州共立大八幡西高～仙台大。大阪の下部組織指導者だった2011年、「兵庫ストークス」のトライアウトを受けて合格しそうになったことがある。



「外様」だからこそ、  
壊して変えることが出来る

チームを率いるのは森山知広ヘッドコーチ(HC)。Bリーグでは大阪を振り出しに島根、福岡でコーチングキャリアを重ね、HCとして福島(B2)をプレイオフに導いた後、22年シーズンからストークスの指揮官を務める。

「最初は驚くことがたくさんありましたよ。ベテランが多く自分たちだけで通用するルールがあつた」と振り返る森山HCが気になつたのは、栄養や休息といった体調管理。「僕はストークスと関わつてこなかつた外様だから、気兼ねなく伝えました」。そうなると反発もありそうなものだが、対話を重ねていく中で選手たちは理解を深めた。そこは多様な文化を受け入れて発展してきたミナト神戸の気質かもしれない。チームスタッフもプロフェッショナルとしてのクラブ文化醸成に総力を挙げるようになる。昨季はスタートこそつまずいたものの、年が明けてから激しい守備に加えてオフェンスの連携が噛み合い、勝ち星が先行していく。4月にはB2最多入場者記録となる5,443人をグリーンアリーナ神戸(神戸市須磨区緑台)に呼び込んだ。プレーオフでは昇格した佐賀に敗れて昇格は果たせなかつたが、A千葉との3位決定戦を制し、23/24シーズンにつながる形でシーズンを終えた。

日本におけるバスケットボール発展の歴史と深い関わりを持つ神戸。この地に2025年4月に誕生する神戸アリーナで、タフネスを緑の戦闘服に包んで「最高峰」の舞台に立つ男たちを観たい。

# いざ、神戸

全員が競争、その上で  
力を合わせた「タフネス」で勝負

「B.革新」を旗印に、2026年には「世界一型破りなライブスポーツエンタメ」となる未来を目指してリーグ構造が変わるBリーグ。2023年、フランチャイズの変更とともに、建設中の大規模島中町6)が今季の主戦場となるストークス。戦術的には余白を残し、選手個人の自主性やクリエイティブを尊重する指揮官だが、今季掲げるコンセプトは明確だ。それは「タフネス」。中でもチームの基礎となるのは攻めるディフェンス。「40分間、強度を落とさずに攻め続ける」守備を理想に掲げ、登録選手全員が競争しつつ、タイムシェアしながらのハードワークが見どころとなる。「ファジカル、メンタルともに全員がタフさを表現できれば、相手チームが嫌がるチームとして成長できる。トランジション、ルーズボール、スクリーンなどスタッツに残らないプレーをいかに大事にしているかも注目してほしい」と語る森山HC。長らくチームの中心として活躍してきた松崎賢人(育英高出)、谷直樹(甲南大出)、道原紀晃(神戸科技高出)、中西良太(神戸市出身)、渡邊翔太(関学大出)と地元出身選手が多く、新フランチャイズで悲願のB1昇格にかける思いは非常に強い。さらに昨季B2ブロック王のトレイ・ポーターが残留してケミストリーは上がっており、2季目の川島聖那は驚異のアスレティック能力で攻守に魅せるプレーが必見。帰化選手としてインサイドでの奮闘が期待されるカロンジ磯山パトリック、1対1での強さが光るジョーダン・キャロライン、オールラundenにプレーできるアイザイア・アームウッドといった新戦力と、司令塔を務める綱井勇介がどう噛み合っていくかも新生ストークス成功のカギを握りそうだ。

次世代型アリーナを本拠地とすることが決定し、新たな船出を迎えたチームが西の港町から出帆する。新生、神戸ストークス。「ALL GREEN」を掲げて今季、14クラブが参戦するB2で戦い、2017-18シーズン以来のB1昇格を目指すチームだ。



SHOTA WATANABE

#10 渡邊 翔太  
タイトな守備とスピード、日焼けした笑顔で魅了する副キャプテン



NAOKI TANI

#9 谷 直樹  
誰もが認めるエリートシューターであり続ける「ミスターストークス」



NORIAKI DOHARA

#13 道原 紀晃  
家族愛とチーム愛が抜群のオフェンススキルと同居する神戸っ子



RYOTA NAKANISHI

#1 中西 良太  
元日本代表ビッグマン。キャリアスタートは高校の元祖リアル桜木



KENTO MATSUZAKI

#3 松崎 賢人  
最年長となつても衰え知らずのクイックネスと愛されキャラは健在



BE KOBE  
KOBE STORKS

## 兵庫全体を盛り上げられるよう 頑張ります。

その金田選手…日本人選手の中では大きく、走れる強みを生かして活躍の幅を広げたいです。ただBでは外国籍選手がインサイドを務めることが多い、自分は2、3番ポジションにも取り組んでいますが、インサイドの大きな選手に臆するところなくがむしゃらにリバウンドに飛び込んでいます。今年は機会があれば、試合でもダンクを決めたいと思います!

【フリのイチ推し選手】ずばり、金田龍弥選手です。すごいポテンシャルを持つています。サイズは大きい(195cm)し、トランジションでも走れるし、めちゃくちゃ跳びます。プロ選手となつて意識も向上したと感じますね。これからストークスでさらに成長して、長く活躍してほしいです。

道原 紀晃 選手

「昨シーズンは出だしは上手くいかず、前半戦は結果が伴いませんでした。が、選手は落ち込まずに前を向き、あきらめずに戦い抜きました。そういうメンタルのタフさはすごく大事でしたね。結局プレーオフまで持ち込むことができて、(上位だった)越谷に競り勝つことで、チームとして成長を感じることもできました。佐賀との対戦では、完成したばかりのSAGAアリーナのインパクトが強かったです。再来年にはなりますが、神戸アリーナが完成したら神戸の皆さんにみんな盛り上がりを届けたいですね。そのためにも今年は優勝してB1に昇格することが絶対目標です。とにかく負けたくない。もともと兵庫ストークスだったのが西宮になつて、今年から神戸となつたわけなので、兵庫全体を盛り上げられるよう頑張ります!」

## チームに頼られる 選手になることが目標です。

川島 聖那 選手

【セナのイチ推し選手】杉山裕介選手のディフェンスを、会場で(できればコートに近い観客席で)見てください。激しくプレッシャーをかけて、常にステイフルやディフレクション(パスやドリブルのボールに触つて軌道をそらす)を狙っています。

【セナのイチ推し選手】杉山裕介選手のディフェンスを、会場で(できればコートに近い観客席で)見てください。激しくプレッシャーをかけて、常にステイフルやディフレクション(パスやドリブルのボールに触つて軌道をそらす)を狙っています。

その杉山選手…実は(白鷗)大学に入つて周

りのオフェンスのレベルが高く、出場機会を得るためにディフェンスを意識したことがきっかけで、そこまで得意ではなかつたんです。守備練習はまずはフットワーク、それから数多く1on1して、相手の動き出しを自分の中の型に当てはめて対応していく感じです。あと、僕は相手選手の目を見ます。次の動きが予測できるので、オフェンスは調子の波があつても、ディフェンスは安定したパフォーマンスができるので、自信を持ってプレーできるよう心がけています。

### 神戸ストークス 2023年試合日程

対戦チーム	会場	TIP OFF			
10月 1PM(火) 6(金) 14(土) 15(日) 21(土) 22(日) 25(水) 28(土) 29(日)	ベルテックス静岡 ベルテックス静岡 バンビシャス奈良 バンビシャス奈良 山形ワイヴァンズ 山形ワイヴァンズ ライジングゼファー福岡 越谷アルファーズ 越谷アルファーズ	静岡市中央体育館 静岡市中央体育館 ロートアリーナ奈良 ロートアリーナ奈良 南陽市民体育館 南陽市民体育館 ワールド記念ホール ワールド記念ホール ワールド記念ホール	19:00 19:00 17:00 14:00 16:00 14:00 19:00 16:00 14:00	静岡県 静岡県 奈良県 奈良県 山形県 山形県 兵庫県 兵庫県 兵庫県	
11月	滋賀レイクス 滋賀レイクス 岩手ピッグブルズ 岩手ピッグブルズ 越谷アルファーズ 越谷アルファーズ ベルテックス静岡 ベルテックス静岡	ワールド記念ホール ワールド記念ホール 花巻市総合体育馆アネックス 花巻市総合体育馆アネックス ウイング・ハット春日部 ウイング・ハット春日部 静岡市中央体育馆 静岡市中央体育馆	16:00 14:00 17:00 13:00 15:00 14:00 17:00 15:00	兵庫県 兵庫県 岩手県 岩手県 埼玉県 埼玉県 静岡県 静岡県	
12月	1(金) 2(土) 9(土) 10(日) 15(金) 16(土) 20(水) 22(金) 23(土) 29(金) 30(土)	愛媛オレンジバイキングス 愛媛オレンジバイキングス 福島ファイヤーボンズ 福島ファイヤーボンズ 滋賀レイクス 滋賀レイクス ライジングゼファー福岡 愛媛オレンジバイキングス 愛媛オレンジバイキングス アルティーリ千葉 アルティーリ千葉	ヴィクトリーナ・ウインク体育馆 ヴィクトリーナ・ウインク体育馆 ヴィクトリーナ・ウインク体育馆 ヴィクトリーナ・ウインク体育馆 洲本市文化体育馆 洲本市文化体育馆 照葉横水ハウスアリーナ 松山市総合コミュニティセンター 松山市総合コミュニティセンター 西宮市立中央体育馆 西宮市立中央体育馆	19:00 14:00 16:00 14:00 19:00 14:00 19:00 19:00 14:10 19:00 14:00	兵庫県 兵庫県 兵庫県 兵庫県 兵庫県 兵庫県 福岡県 愛媛県 愛媛県 兵庫県 兵庫県

## KOBE ARENA 2025 OPEN!



ミナト神戸・新港第2突堤で進む、神戸アリーナプロジェクト  
次世代に誇るランドマークは2025年4月、その姿を現す  
阪神・淡路大震災からちょうど30年となる節目の年  
不死鳥のごとく世界へとばたく姿を想起させる  
ストークスはじめ多様なイベントの舞台となる  
270度海に囲まれたウォーターフロント  
吹き抜ける潮風は何を運ぶだろう  
煌めく夜景が照らし出すものは  
それはきっと、熱狂、共感、協創による新たな価値  
神戸から「この世界の心拍数を、上げていく。」

# BASKETBALL WORLD CUP

2023 World Cup seen from various perspectives.

夏の終わり、世界中が熱狂したFIBAワールドカップ2023。その熱気を異なる場所と視点で目撃した3人が、それぞれのアツい思いを語る。



NBAやNCAA、FIBA主催の大会など長年取材するライター、青木崇さん。今大会をフィリピン・マニラで開幕から決勝戦まで目撃した第一人者に、世界の潮流を聞いた。

## 今大会、どんな大会だったのでしょうか

アルゼンチン(世界ランク7位の強豪)が大陸予選の最後にドミニカ(18位、ガルシアヘッドコーチは元アルゼンチン代表HC)に負けて本選に出られませんでした。他にもクロアチア(30位)が欧洲1次予選(フィンランド、スロベニアと同組)で敗退。サトランスキー(Tomas Satoransky)らに続く選手が育っていないチェコ(19位)も届かないなど、ヨーロッパは世代交代が失敗すると厳しい。そんな中、コーチ“ペップ”(アンゴラ代表のジョゼップ・クラロス・カナルスHC)は、日本(26位)、ラトビア(8位)、フィンランド(20位)が非常にレベルアップしていると話していました。特にラトビアは今回、間違いない実力を証明しました。優勝したドイツ(3位)に最も「ヤバい」と思われたチーム。イタリア人ヘッドコーチの記者会見は喋り出したら止まらない感じで面白かったです。フランス(9位)はうまくいかなかつたけど、自国開催の五輪前で良かったと思います。良い意味で引き締めになるし、コレ(Vincent Collet)HC体制が約15年続きましたが、おそらくパリで最後でしょう。ウェンビー(Victor Wembanyama)が出たいと言つていましたし、オリンピックに照準合わせてきますよ。W杯に比べると日程が楽(最大6試合、W杯は8試合)です。ちなみにエンビード(Joel Embiid)は、代表でプレーする場合はアメリカに決めましたからね。

面白かったチームは、南スーザン(31位)。元ブルズのデン(Luol Deng)が会長で、NBAアカデミー・アフリカのメソッドと、世界一長身の部族ディンカ族がいる強みもあります。他のアフリカのチームは戦術的にヨーロピアンテイストですが、南スーザンはアメリカンテイスト。パリ五輪ではヨーロッパのチームにひと泡吹かせる可能性はあります。



**TAKASHI AOKI**

青木 崇(アオキ タカシ)

バスケットボールライター

群馬県前橋市出身。月刊バスケットボール、HOOPの編集者を務めた後、98年からライターとしてアメリカ・ミシガン州を拠点に12年間、NBA、WNBA、NCAA、FIBAワールドカップなど様々なバスケットボール・イベントを取材。2011年から地元に戻り、高校生やトップリーグといった国内、NIKE ALL ASIA CAMPなどアジアでの取材機会を増やし、幅広く活動している。

## 五輪出場権を得られなかつたチームは最終予選で戦いますね

五輪出場権を得るという最低限の結果を残したアメリカ(1位)は、パリにはベテラン選手が出るかどうか話題になっていますが、スーパースターが出たからといって勝てる(金メダル)保証はありません。それぐらい世界各国のレベルが上がっています。

## 勢力地図が変わってきたのでしょうか

アフリカはNBAアカデミー、アフリカリーグもあり、リソース(資源)が豊かでアフリカ大陸予選も競争が激しくなっています。今後アフリカの枠が増えてもおかしくない。そうなると影響を受けるのはアジアかもしれない。今回、中国が大敗したことでもしかりません。FIBAにとつては懸念材料ではないでしょうか。

ただその中で、日本代表の活躍はホームコートアドバンテージがあつたとしても、多くの関係者から称賛されました。今後の課題はニュートラルでどれだけ戦えるか、パリ五輪が指標になると思います。個人的にはジエイコブス晶や川島悠翔ら若手が食い込めるかにも注目しています。八村塁に関しては、本人が出ると明言することが大前提で、あとはレイカーズのシーズンがどこまでいくのかいうのも影響するでしょうね。

## 今大会、どんな大会だったのでしょうか

ますよ。ボル・ボル(Bol Bol)にモゲン会長は声をかけるのではないでしょか。

優勝したドイツは、去年のユーロバスケットでメダルを取った経験が大きかつたのでは。長期計画で土台は変わらずに続けてきて、シユルーダー(Dennis Schröder)の求心力というか、代表に対するコミットする姿勢、プレーする意義というのを彼はすごく表現して、チームに素晴らしい影響を与えたと思います。

ニアルカ(Luka Dončić)の支配力と周囲とのバランスがなかなか難しくなつてきているような気がしますが。なんにせよヨーロッパはすべて要注目です。トルコ(24位)はプレ選でクロアチアに負けて出られないし、アルゼンチンもプレ選でバハマ(57位、ただしNBA選手のディアンドレ・エイトン、バディ・ヒールド、エリック・ゴードンが参戦)に負けて出られないわけで、最終予選自体のハードルも非常に高くなっています。



# HOTOKU GAKUEN SENIOR HIGH SCHOOL 報徳学園高校



報徳学園高校  
田中 敏監督  
TAKASHI TANAKA

1978年、兵庫県出身。須磨東高～大阪体育大～さいたまブロンコスなどで選手として活躍。指導者として神戸龍谷高女子を経て、2008年から現職。

インターハイ  
8強



## HYOGO チーム 探訪 vol.1

高校野球の強豪としても知られる報徳学園は、甲子園球場のある兵庫県西宮市にある。閑静な住宅地の中にある男子校で、決して大きな体育館は中学と高校で一面ずつを使用する。チームを率いて16年目の田中敏監督はさいたまブロンコス(→Bリーグ)でのプレー経験もある神戸出身の指揮官。この夏、2020年コロナ禍真っ只中での冬の全国ベスト8以来の全国上位に戻ってきた。

### 持ち前のスピード、ショート力に プラスする戦術理解度

「1回戦から準々決勝の日本航空(優勝校)戦まで、どの試合でもうちの良さ、いい部分は出せたかと思います。ディフェンスでは堅く守つて、シートまでいかれた場合でも相手メンバーや中で打たせるべきところに打たせる、という意識を実践できたところですね」。夏の記憶をたどつてもらうと、すぐにゲームプランと結果が出てきた。特に力を入れる守備では「全員が力を合わせてインサイドとアウトサイドでタイミングをはかりながら連携する」ことは常に確認し合っているという。

ただこの夏、北海道の会場で多くの観客が初日から日本航空戦まで目を見張ったのは報徳のオフェンスだった。相手チームの特徴に合わせて攻めどころを突いていく臨機応変、変幻自在の攻めは「それこそが8強まで勝ち上がれた要因」と指揮官が振り返る通り、選手たちが大きく成長した部分だった。トランジション勝負とみれば#7森本虎志を中心スピードを上げてファストブレイクを連発する。ハーフコートバスケットでもサイズのある留学生がインサイドを威圧しているなら、



指揮官が信頼を寄せる司令塔  
星原 甲治主将

(報徳学園中から同高)中学1年の時から隣のコートで高校生の練習を見てきました。お手本にしたのは宇都宮陸さん(京都産業大学3年)のクロスオーバー。自主練とか練習後の1対1を真剣に見て、真似できるよう練習しました。今年はどこからでも点が取れます、悪い流れの時にシュートを決め切る選手になって勝利に貢献したいです。



### ◀ノードリブル4on4 練習

フルコートを使い、エンドからのスローインでスタートする「ドリブルなしの4対4」。OFFのポイントは「ボールも止めずに運ぶ」「パスと動き出しのタイミング、スペーシングが4人で適切になるように」「特にプレスDEFに対してボールと人が連動すること」。DEFのポイントは「ボールの運動に即応して正しい位置を取る」「ヘルプの判断」「強度」がカギ。「特にOFFでボールを持つ時、しっかりと守備を見て動いていれば、正しいピボットの踏み方やパスの出し方が自然と身に付くはずです」。

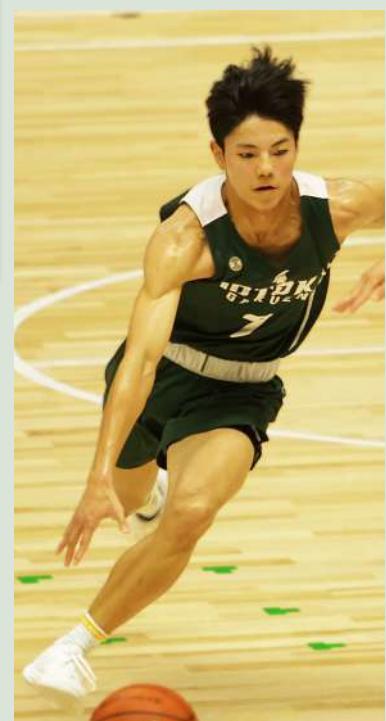


高校生の隣で練習、  
初出場全中でベスト8

就任4年目の池田悠人コーチは「アメリカ留学経験も指導に落とし込む。「知識よりもしつこさとかこだわりとか、意識の差が大事」ということをベースに向き合っている」という。まずは選手に「みんながやろう」と決めたことをやり抜くことと伝え、「全中では「3年生の個の力をルールに則つて活かす」ことをやり抜くと決めて臨んだそう。チームポリシーとして「ポジションや役割の枠にはめすぎず、でもチームとしての約束は徹底すること」を大事にする27歳の若手コーチが日々考えるのは「教え過ぎない」ための方法。中学生が将来長くバスケットボールを愛し、競争を楽しむ選手としてキャラクターを続けてくれることが大目標だ。

### 全国大会でも注目集まるスピードスター 森本 虎志

チーム全員が運動してどこからでも攻めることができます。トランジションでは率先して切り込んで、苦しい時こそ流れを変えようと常に心がけています。個人的な課題はアウトサイドシュート。もっと成長して、冬はメインコートで暴れたいと思います。



スマートに勝利への適正解を追求「百折不撓」の精神であきらめないスバルタンズ

ファイブアウトで相手ビッグマンを引き出し、そこからミスマッチを作り出してワイークポイントを探し出しながら攻める、という指揮官の狙いを選手たちが徹底して理解、実践できたことが結果につながり、注目度は日に日に高まつた。

# MIYAZAKI チーム探訪 vol.2

vol.2

MIMATA JUNIOR HIGH SCHOOL  
町立三股中学校(女子)



全中  
優勝



横山 祥子監督

SHOKO YOKOYAMA

1970年、宮崎県小林市出身。小林高～筑波大。1993年から宮崎県教員。久峰中、小林中、五十市中を経て2014年から現職。

都城市立五十市中を2012年、日本一に導いた横山祥子監督が同町唯一の公立中学校である三股中に赴任したのは9年前。全国制覇を目標し、子どもと保護者に伝えてきた4つの約束は、今でも「ことあるごとに伝えていく」。[六  
う、全国的にも珍しい町だ。

## 逆転の連続で勝ち 強さの根っこは

宮崎県南部の中核都市、都城市に隣接する

わやかな挨拶「気持の良い返事」、黙々と「清掃」「履物を揃える」。バスケットボールを語る前に日常生活を大切にする考えは、1993年に教員となって以来、先輩指導者たちから学

## 「学び続ける」覚悟

(長崎)の只熊一道さん、九州のラバルとなる先輩の元へ通い詰めた。すると理論に裏付けられた厳しい練習とともに、絶対に必要だと実感したのが「人間力」の育成だった。良い選手である前に、良い生徒であること。人間としての根っこを大きく育てなければ、その先の成長はない。若き指導者はメモ魔となつて学び続けた。「学ばない指導者に出来た生徒は、不幸だな」。筑波大の恩師、笠原成元さんに言われた言葉は、今も心に響き続けている。そしてその覚悟は生徒へ、保護者へと伝わり、11年前の日本一に結実した。

最高の夏の先へ

本番並みに強度を上げて打ち込む子どもたちを誰よりも近くで見てきた。だから全中で「差し転の三股」と称賛される前から、指揮官も選ばれ、「大丈夫、自分たちならやれる」という攝らざる自信が間違なくあつた。そして保護者との信頼。監督が「協力ではなく、一緒に張つてやる」と感謝する親たちが応援する姿に、やらされている雰囲気は微塵も存在しないなかつた。

横山監督は試合中、交代で戻った選手には「とんでも声をかけない。これは11年前も今もまったく同じだ。代わりに豊永梨紗一チ<sup>ぱち</sup>話を」「私が伝えたいことを間違ひなく言つてくれる」という信頼は、彼女が県6連覇を果たした小林中の生徒だった頃からの年月によって醸成されたもの。そして「高さ以外ではどこにも負けない」と決めたチームでも、そこには「かって努力する生徒への信頼は揺るがない

互いを「信じる」チーム

身長のハンデをスピードでミスマッチに埋め、攻撃的なディフェンスと高確率のストリーボイントを徹底的に磨くチーム哲学。それは東京五輪で銀、先のW杯でパリ五輪出場権を掴んだトム・ホーバースHCのそれとも重なる。日本代表も「信じる」がキーワードだった。二気な町のよき生徒たらんとする彼女たちは師を、仲間を、家族を信じて、きょうも笑顔と気迫の道を行く。

ツルヤ  
▲TSURUYA 練習

女子西日本地域リーグの強豪、鶴屋百貨店(熊本)に教えてもらったことから、この呼び名に。ボールを持たないオフェンスと、両手を後ろに組んだディフェンスが、コートエンド間を2往復。次にディフェンスは両手を普通に戻して2往復。「シンプルなアジャリティトレーニングですが、ボールのない状態でハードに守ることができればボールを持った状況での守備はより粘り強くなる」。攻守ともに全力であることはもちろん、苦しいはずの選手も周囲から応援する仲間も、写真には写っていないコートサイドの保護者も竿頭だった

標題：「樹山 墓子」

子どもたちに対して常に一生懸命な、思いやりのあふれる先生を慕って、卒業生・OGの方々が練習場や試合会場へ足を運ぶ姿をこれまで数多く見てきました。今後も三股中の躍進はもちろんですが、4年後に開催される予定の宮崎国体(成年女子の監督でもあります)での活躍も楽しみにさせてもらいますね!



「RED WINGS」のチームカラーが鮮やかに輝く特製のボールが



A group of young basketball players in red jerseys with "NAGASAWA GAKUEN" and "BASISTA" logos are cheering and raising their arms in excitement. They are on a basketball court with a blue and white background.

# HOOPREX®

BASKETBALL GOODS

Hard work beats talent when talent fails to work hard.

## 最強を纏う

地球史上最強のハンター

### T-REX



2023-24 collection

13 ON THE COURT HOOP PRESS



# Nissy's TRAVELING Talk



VOL.  
2

文 西寄 浩彰

text by Hiroaki Nishizaki

神戸生まれ。学生時代10年間バスケットボールで汗を流し、現在は観戦専門。ここ数年はNBA、NCAAなど合わせて年間10試合以上を現地観戦。趣味はカレッジキャンパス巡り。



## 初めての台湾

パンデミックが無ければ、その間に恐らく2～3回は訪れたかもしれない台湾ですが、今回初めての訪台。そのきっかけになったのが、現在全日本大学バスケットボール連盟の男子強化委員長を務めている松藤貴秋先生(中京大学)から、「ジョーンズカップに参加するので、ユニフォームを作ってくれないか?」との問い合わせでした。二つ返事で引き受けたかったのですが、納品までの時間がかなり短く、間に合うかどうか分からぬ、難しい状況の中、いろいろな方の協力があり、引き受けることにしたのが依頼を受けた翌日。手配してから納品するまで、トラブルが無いことを毎日祈りながらドキドキしていましたことが思い出されます。

この時点では、台湾に行く予定はありませんでしたが、ちょうど会社が盆休みだったことと、中京大学OB(私の1学年下)の台湾人、現在台湾体育運動大学の教員をしている唐先生から「折角ユニフォーム作ったのに来ないの?」とお誘いを受け、行くことに決めたのが出発の1週間前。その後彼から「私は自分たちの大会があるから行けないんですけど」と連絡があり、若干イラッ(笑)。それでも私の滞在中、わざわざ日帰りで息子さんと一緒に会場まで来てくれました。手土産も忘れない、とてもいい後輩でした。

## ジョーンズカップ

女子は前の週に終わっていたので観ることはできませんでしたが、男子は日本学生選抜の8試合の内3試合を観戦することができました。出国当日の15時からのゲームを観戦する予定でしたが、飛行機の離陸が30分ほど遅れ、もともと試合開始ギリギリの移動だったこともあり、トスアップには合わないと諦めていたところ、機長の頑張り(!?)で約10分の遅れで桃園国際空港に到着。心配していたイミグレーションですが外国人レーンは私のみ。さらに私を待っていたのかと思うくらいタイミングよく停

車していたMRT(空港と台北を結ぶ電車)に乗って、台北駅から飛び乗ったタクシーの運転手が恐ろしく(汗)飛ばしてくれたおかげで、試合開始15分前に会場の「臺北和平籃球館」にたどり着きました。

と、ここまで初めの訪台とは思えないくらいスムーズでしたが、お願いしていたADカードをスタッフの方から受け取るところで行き違いが…試合開始直前ということで誰とも連絡がつかず、10分くらいオロオロ、もうチケットを買って入ろうとしていたものの挙動不審な私。その様子を見ていたもぎりのお兄さんが、なんとチームのロッカールームまで案内してくれて奇跡的に一件落着となりました。

試合の方は、アメリカ代表として参加していたNCAA(全米大学体育協会)ディビジョンIのUC Irvine(カリフォルニア大学アーバイン校)に悔しい大敗(47-108)。その後の2試合も観戦し、気づいたら日が暮れていきました。

翌日はUC Irvineと韓国代表のKGC(昨シーズン韓国プロリーグのKBL2位)の対戦が面白そうだったので会場へ行くことにしました。KBLはオンザコート1(外国籍選手の出場は1人)なのですが、アメリカ人選手を2名保有するKGCはスタートから彼らを同時に起用。本気で勝ちにいき、なかなか見ごたえのある内容でした。結果は大接戦の末、87-82でアメリカの大学生が韓国の一勝をしました。

試合後は台湾に来た足跡を残そうと思い、『台北101』(高さ509.2mの超高層ビル)にある、行列のできるお店に小籠包を食べに行きました。ところが、帰国してから私が住む神戸にその店がある(!)ことを知りました。逆にそのお店には行ったことがないので、折を見て味の確認に行こうと思います。

## William Jones Cup

### ウィリアム・ジョーンズカップについて

ウィリアム・ジョーンズカップとは台湾の台北で1977年、第1回大会がスタートしたバスケットボールの国際大会。以来、毎年夏に行われているA代表扱いの招待大会です。

ところが2020年～22年はCOVID-19のパンデミック(感染拡大)により開催されなかったため、今年の夏(2023年)は4年振り42回目の開催となりました。各国・地域の参加チームはナショナルチーム、クラブチームなどさまざまですが、日本からは今回、男子は日本学生選抜、女子はWリーグに所属するシャンソン化粧品が参加し、それぞれ総当たりで試合を行いました。

#### 男子参加チーム

UC Irvine(アメリカ)/イラン(ナショナルチーム)/カタール(ナショナルチーム)/UAE(ナショナルチーム)/Rain or Shine Elasto Painters(フィリピン)/Anyang KGC(韓国)/チャイニーズタイペイ(ナショナルチームA/ナショナルチームB)/日本学生選抜

#### 女子参加チーム

BNK(韓国)/イラン(ナショナルチーム)/フィリピン(ナショナルチーム)/チャイニーズタイペイ(ナショナルチームA/ナショナルチームB)/シャンソン化粧品シャンソンVマジック



日本学生選抜チームベンチ。中央奥はチームリーダーの池内泰明さん



▲小柄で183cmながら韓国戦の豪快なダンクで

3日目、日本学生選抜は韓国KGCと対戦しました。スタートから明らかに余裕を見せるKGCに対し、日本学生選抜も出だしから素晴らしいプレーで応酬。果敢にゴールへ向かう日本学生選抜の姿に、次の台湾代表の試合を観に来たであろう大勢の台湾の皆さんがあ歓声を送ってくれました。

そんな応援の中、今大会初勝利が期待できる内容でしたが、韓国のプロが1枚上手。勝負どころの3ポイントシュートは外しませんし、さすがプロでした。結果は89-97で惜しくも敗れましたがとても良いゲーム、観に来た甲斐がありました。4Qに根本大選手(白鷗大学3年)がドライブからダンクを決めたときの“どよめき”と松藤HCの“ガツツポーズ”は今思い出しても鳥肌が立ちます。



4日目、昨日のゲームの余韻が残るなか迎えたイラン戦。初勝利を目指すチームの「勝ちたい」という気持ちが明らかに観客席まで伝わってきました。開始早々からその気持ち通りの好プレーが連発、しかしA代表ではないもののナショナルチームとして参加していたイランからなかなかリードを奪えません。一進一退の攻防が続きましたが、最後に試合を制したのは日本学生選抜! 5試合目でうれしい初勝利(73-72)です。本当にメンバー全員が、40分間集中してプレーを続ける素晴らしい内容でした。MVPは21得点(7/10という高確率で3ポイントを決めた)で勝利に導いた小澤飛悠選手(日体大1年)だったと思います。ただし一番の殊勲者は、試合終盤の微妙なアウトオブバウンズのジャッジに対して、コーチチャレンジを使ってそれを覆した松藤HCかもしれません。

まだ残り3試合ありましたが、私の盆休みはこれで終わり。「あと2試合は勝てる!」と松藤HCに言い残し帰国の途に就きました。(最終結果1勝7敗)。今回の日本学生選抜は20歳以下の若手で構成されました。ほとんどの選手が初めての国際大会だったようですが、堂々とした戦いぶりでとても良い経験になったと思います。今後、この中からBリーグや、A代表に選ばれて活躍する選手が出てくることを願ってやみません。



松藤 貴秋ヘッドコーチ

みなさまのサポートのおかげで、ジョーンズカップを戦い抜くことができました。また、イラン戦では貴重な勝利を掴み取れました。この大会を経験した選手が成長し、Bリーグ、ユニバーシアード、A代表と繋がっていきたいことを願っています。ありがとうございました。



川面 剛アシstantコーチ(左)

今回、選手、スタッフは、JAPANのロゴが入ったウェアを着て代表の重みを感じながら、精一杯戦い、成長をさせて頂きました。本当にありがとうございました。



▲アダム(右)とロバート(左)のヒントン兄弟は、チャイニーズタイペイBチームの選手ですが早く撮影に応じてくれました。お兄さんのアダムは現在NCAAディビジョンIのアイビーリーグ、コーネル大学に所属しており、2歳下の弟ロバートは同じアイビーリーグのハーバード大学に2024年入学予定のこと。2人のおじさんはあのリチャード・ハミルトン(デトロイト・ピストンズ)で2004年優勝、オールスター選出3回のスター選手。台湾の次世代を担う甥っ子スター選手にも要注目です!

バスケットボールにまつわるあれこれを  
幅広くお届けします。

ハッスルボード編集部

TOPIX  
all about basketball

シューズ  
Wリーグ  
YouTube



バスケットボールに欠かせないもの、それは「バッシュ」。最高のプレーを支える裏側を探るため、神戸に開発拠点を置く「アシックスジャパン」カテゴリー統括部の案浦萌さんに秘密を聞いてきました。

Q ASICSのバッシュって、どのように作られているんですか？

開発の拠点は神戸・ポートアイランド、商品企画やマーケティング担当者は東京で、連携しながら開発・企画を行っています。実際世に出るまでは合計3回サンプルを作り、性能に関するテストなどを行います。

Q アシックスにはどのような特徴があるのでしょう？

これまでのイメージとして「クッション性」と「剛性」が足りない、という弱みがありました。(そんな風に思ったことないけど…仕事に厳しいですねえ)そんな印象を覆すべく開発したのがUNPREARS(アンプレアルス)シリーズとNOVASURGE(ノヴァサーボ)シリーズです。サイドウォール(ソールの外側にせり出した部分が文字通り壁となり、切り返し動作など横方向の動きをサポート)が特徴のアンプレアルスは剛性と軽さを両立し、激しいステップワークをサポートします。ノヴァサーボは現行ラインナップの中で最も厚いミッドソールを採用し「クッション性」が強みで、ジャンプ動作をサポートし高さで勝負するプレーヤーをサポートします。他にも女性に特化したサポート性能を備えるLADYGELFAIRY、縦方向のスピードが持ち味の選手にお勧めのGELBURST、エントリーから幅広くお勧めのGELHOOPなど、体格や年代に合わせた全12種類の中から自分に合った一足が見つかるはずです。

Q こだわりが凄いですね。河村勇輝選手もシューズを変えたとか。

ワールドカップではアンプレアルスLOWを着用されました。アシックスとしてはフィジカルのレベルアップに応じてシューズの履き替えを推奨しています。以前着用していたGLIDENOVA FFは軽さとフィット性が売り。スピードで守備の合間をかいくぐっていく河村選手に合っていたと思いますが、高校卒業後筋肉量の増加とスキルの進化に伴い、速さだけでなくフィジカルでも競り合う場面が増え、体格の大きな相手とのマッチアップも増えました。プレー内容の変化にも伴い、剛性やサポート性に優れたアンプレアルスに変更し、活躍を足元で支えています。河村選手自身も「これまで軽さを重要視して選んでいたが、自分の足への負担等を考えると、ある程度の

重さのあるシューズでもサポート性が必要」と話していて、選手自身にもプレーや体格の変化による履き替えの重要性を感じもらっています。

Q どんなレベルでも自分に合ったバッシュ選びは大事ですか？

特性として「常に動き続けている」「全員攻撃、全員守備」「急ストップや切り返し、急加速など激しい動き」「身体接触が多く、相手の体重を支えることが多い」など、足への負担がかなり大きな競技です。「ケガしない」ための観点はもちろん、最大限良いプレーのためにも重要です。シューズを世に出す人間として常にこのように考えて作っていますから、アシックスを選んでくれた皆さんを後悔させたくない、という思いは強くあります。企画～開発～販売までの性能テストはもちろん、選手に対するヒアリングも機能・デザイン含めて数多く実施しています。これからも「求められる商品」「満足していただける商品」を開発できるように心がけていきます！

NOVA SURGE シリーズ



高さ クッション性 反発力

UNPRE ARS シリーズ



強さ サポート性 安定性

GLIDE NOVA FF シリーズ



速さ フィット性 軽さ

ジュニア向け(3シリーズ)



サポート性 クッション性 速さ

塙本清彦バスケちゃんねる  
TSUKA3CHI - 塙さんち

NBA解説などで知られる塙本清彦さんが今夏、バスケットボールにまつわるネタをとことんしゃべり尽くすYouTube「塙本清彦バスケちゃんねる-TSUKA3CHI-」を開設した。まずは大学バスケ界の名将とBリーグの人気選手をゲストに熱くおもろいトークを繰り広げ、ワールドカップの話題にも肉薄。「塙さん」が推しの話題を続々とお届けする。

育英高～明治大を経て、日本鋼管時代には北原憲彦さんや陸川章さんとリーグ優勝を果たすなどポイントガードとして活躍。明大ヘッドコーチなどを歴任し、軽妙なトークと幅広い知識で国内の学生大会からNBAまでカバーする人気解説者として活躍する一方、全国各地でクリニック活動にも取り組んでいる。

8月に配信が始まった第1回のゲストは、東海大学を全国屈指の強豪に育て上げた陸川監督。お互いに現役時代の「昔話」も振り返りながら、河村勇輝選手ら教え子を中心に日本バスケの未来についても自由自在に語り合った。W杯予想回も挟んで、第2回には現役Bリーガーの渡邊裕規選手(宇都宮ブレックス)が登場。目標にした(意外な)NBA選手やチームメイト秘話、農業プロジェクト(!)についてもしゃべり倒す。

今後、福岡第一高の井手口孝監督をゲストに迎える企画や、月1回のペースでYouTubeトークライブを実施する予定。バスケ愛とおもしろ無限トークは止まらない。



TOPIX 3

今年で第25回を迎えるWリーグの開幕会見が9月末、東京都新宿区の京王プラザホテルで開かれた。四半世紀の節目となる今季、史上初のファン(Wリーグユニバース有料会員限定)参加型で会場が埋まる中、14チームから各2人の28選手が陽気な素顔のぞかせつつ、迫る戦いへの意気込みを語った。

冒頭で原田裕花会長は「男子日本代表の活躍で盛り上がる中、Wリーグのひたむきで世界トップレベルのプレーもご覧いただきたい」とあいさつ。2024-25シーズンから2ディビジョン制が導入されるWリーグ。今季の上位8チームが国内トップとなる「プレミア」、下位6チームで「フューチャー」に振り分けられるため、スローガン「GO SURVIVE」の通り、生き残りをかけた激しい戦いとなるのは必至。昨季ファイナルで死闘を繰り広げたENEOSサンフラワーズとトヨタ自動車アンテロープス、レギュラーシーズンを制したデンソーアイリスなどは日本一への強いこだわりを、下剋上を虎視眈々と狙う下位チームはベスト8への熱い思いをファンに伝えた。

また今季、1月上旬から2月末はパリ五輪最終予選のための中断(1/13・14にスーパーゲームズを高崎アリーナで開催)や3/30～4/15のプレイオフ(クォーターファイナルまで高崎アリーナ、セミファイナル以降武蔵野の森総合スポーツプラザ)、5/3・4のオールスター(@豊田合成記念体育館ENTRIO)などの日程も発表された。さらにリーグ創設25周年の歴史の中で「W」を盛り上げ貢献した選手25人を選ぶ『GREATEST25～25years 25players～』を実施することも決まった。選考の詳細は後日発表となる。





W杯決勝のために作られ、全世界1,200個限定で発売(SOLD OUT)された①モルテン社製バスケットボール、その大会で河村勇輝選手が着用していた同モデルの②アシックスシューズ、③神戸ストークスの観戦ペアチケットのいずれかをそれぞれ1名様にプレゼントします。応募資格は「バスケへの熱い思いとエピソードを持ち、教えていただける方」。バスケ愛さえあれば地域、年齢、性別、カテゴリーなど問いません。当選された場合、誌面掲載にご協力いただく場合があります。予めご了承ください。

**1 モルテン社製 (BG5000FIBA) バスケットボール ワールドカップ2023 決勝戦専用公式試合球**



ネイスミストロフィーと決勝戦の日付が刻まれた限定販売品。ボールにはシリアルナンバーが焼印で刻まれており、専用化粧箱(シリアルナンバータグ付き)入りです。

**2 アシックス 河村勇輝選手着用モデル UNPRE ARS LOW (クリーム/ゴールデンイエロー) [26.5cm]**



素早い切り返しや左右への激しいステップワークを支えるための安定性にすぐれた「アシックスアーラス」モデルのローカットタイプ。

**3 神戸ストークス 2023-24ホーム観戦ペアチケット**



**締切 2023年11月20日(月) 23時59分**

※回答はお1人1回までとさせていただきます。  
※当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。  
※発送は2023年11月下旬を予定しています。  
※本アンケートは予告なく変更・中止させていただく場合がございます。

スマートフォン、PC、タブレットから応募  
<https://onl.la/yKpicUr>

にアクセスしてアンケートにお答えください。



※一部の端末・機種でご利用いただけない場合があります。予めご了承ください。

なにもJR神戸線の駅名を並べたわけではない。熱心なバスケファンならご存じだと思うが、2011年に創設された『ストークス』のホームタウンの変遷だ。兵庫県初のプロバスケットボールチームとして誕生し、県鳥であるコウノトリにちなんだストークスの愛称はそのままに、ホームタウンが移転したことを意味している。

創設当初は兵庫県全体をホームタウンとし、旧トップリーグJBLの下部組織、JBL2で活動を開始した。初代ヘッドコーチ、BTテーブス氏――現在、Wリーグの富士通レッドウェーブHC、というよりテーブス海選手(アルバルク東京)、テーブス流河選手(アメリカ留学中)のお父さんといったほうがわかりやすい!――に率いられ、2012シーズンにリーグ優勝を果たした。

その後、JBL2からNBLを経て、2015年には本拠地を西宮へ移転。Bリーグ初年度はB2からのスタート。すぐ結果を出し、中地区を制してB1昇格を果たしたが、残念ながら1年で降格し、その後はB2に定着したままだ。しかし2023年、ビッグプロジェクトが動き出した。神戸をホームタウンとする『神戸ストークス』へと生まれ変わり、約8千人収容の「ワールド記念ホール」がメインアリーナに……というのはまだ序ノ口。2026年の秋に開幕す

る「新B1」(Bリーグプレミア)入りを視野に、もつと大規模なプロジェクトが進行しているのだ。

**神戸港の新アリーナへ**

言わずと知れた港町・神戸だが、ここ数年、ベイエリアの再開発が盛んで『神戸アリーナ(KOBE Smartest Arena)』もそのひとつ。再来年4月の開業を予定しており、当然、神戸ストークスのホームアリーナとして活用される(6、7ページ参照)。

最新の音響・照明設備を備えたアリーナでストークスの選手たちが躍動する、そんなシーンを想像するだけでワクワクする。最高峰の舞台で戦う選手をここで観ることができるのだ。

ならば必要なのは、大声援のあと押し。阪神タイガースがアレしたように、ストークスのアレだつて大丈夫! まずは今シーズン、ストークスの尻を叩きにホームゲームへ行こう。推しの選手のグッズを買って、観客席をグリーン一色に染めてしまおう。

バスケの面白さを知っている貴方、ぜひ誰かを誘って観に行つてください。みんなでバスケ、応援しましょう。

text by kogen minato  
スポーツ好きの編集者・ライター。とりわけバスケットボールはプレー歴がさまざま。ジャンルの書籍や雑誌「パンフレット」などの制作・原稿執筆も経験。近頃は関西バスケに興味をもたらしている。

皆人公平  
寄港中



ON THE COURT, Inc.

バスケットボールに関わるすべての人たちのために

Involved in basketball for everyone.

